

Study on constraints and negotiation arising in considering participation in sports volunteering

備前嘉文 (國學院大學)

① 背景

近年、オリンピックやワールドカップをはじめとする国際的なメガスポーツイベントや、参加者が1万人を超える大規模な都市型マラソン大会が全国各地で開催される中で、大会の運営をささえるスポーツボランティアの重要性が高まっている。しかしながら、スポーツボランティアに関しては、成人の過去1年間のスポーツボランティア実施率は5.3%と低く、全国・国際的なスポーツイベントにボランティアとして関わる機会が少ないのが現状である。どのような要因がスポーツボランティアへの参加を阻んでいるのだろうか。

② 目的

実際にスポーツイベントにボランティアとして参加した人を対象とした調査から、スポーツボランティアへの参加を検討する際にどのような制約が生じるかを明らかにするとともに、それらの制約をどのように解消して実際のボランティア参加に至るかについて検討を行うことを目的とする。

③ 先行研究

1. 行動を阻害する要因 (Constraints : 制約)

制約に関しては、個人の心理的状況や置かれた立場に由来する「個人内の制約」(intrapersonal constraints)、一緒に参加する人との関係など他者との関係に由来する「対人的制約」(interpersonal constraints)、そして、イベントが開催される日程や天候など環境や状況に基づいた「構造的制約」(structural constraints)の3つに分類されている(Crawford and Godbey, 1987)。

2. 制約を解消するための行動 (Negotiation : 交渉)

制約を解消するための行動については「交渉」(negotiation)と呼ばれ、「金銭的マネジメント」(financial management)、「時間のマネジメント」(time management)、「対人的調和」(interpersonal coordination)、「スキルの獲得」(skill acquisition)の4つがあるとされる(Jun and Kyle, 2011)。

3. 制約と交渉の関係

制約と交渉が実際の参加に及ぼす影響に関しては、図1に示すような関係が、レジャー活動への参加における交渉行動のプロセスとして示されている。

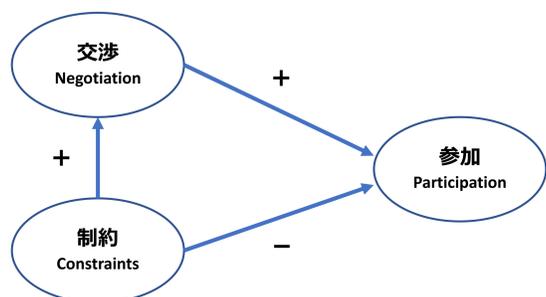


図1 レジャー活動参加における交渉行動のプロセス
(Hubbard and Mannell, 2001より)

④ 方法

2018年11月17日、18日、24日の3日間に奈良市および天理市で開催された奈良マラソン2018ボランティア事前説明会の会場において、個人ボランティアとして参加した人を対象にアンケート調査を実施した。



(ボランティア説明会の様子)

⑤ 質問項目

制約に関しては3因子10項目について、「あなたがボランティア活動への参加を検討するにあたり、次の項目はどれくらい影響がありますか?」という質問文に対して「1.まったく影響がない(あてはまらない)~5.大変影響がある(あてはまる)」の5段階で回答を求めた。また、交渉に関しても4因子12項目について、「マラソン大会をはじめとするスポーツボランティア活動に参加するにあたり、あなたは次の項目について日頃からどれくらい熱心に取り組んでいますか?」という質問文に対して「1.まったく行っていない(あてはまらない)~5.常に行っている(あてはまる)」の5段階で回答を求めた。

⑥ 結果

● サンプルの属性

説明会の参加者903名に調査票を配布し、460部を回収した(回収率50.94%)。その後、回答が不完全なものを取り除き、最終的に400部を分析に用いた。サンプルの属性については、性別に関しては男性256名(64.2%)、女性143名(35.8%)、未記入1名であった。平均年齢に関しては57.73歳(標準偏差17.54)であった。

● 個人の属性と生じる制約の関係

表 個人属性と制約の関係

	男性 (n=256)		女性 (n=143)		年齢低い (n=199)		年齢高い (n=201)	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
個人内の制約	10.11	3.24	9.89	3.44	10.75	3.04	9.35	3.44
対人的制約	6.71	3.06	6.97	3.11	7.25	3.10	6.34	3.01
構造的制約	6.75	2.65	6.78	2.70	6.84	2.55	6.66	2.79

t検定を用いて男女間の各要因の項目に対する平均値を比較したところ、すべての要因において有意な差は見られなかった。

年齢と制約の関係については、サンプルを年齢の中央値(64.00)を基準に高低に分類し平均値を比較したところ、個人内の制約($t(398) = 4.329, p < .001$)と対人的制約($t(398) = 2.993, p < .01$)の2要因で有意な差がみられた。

● 交渉行動とスポーツボランティア参加の関係

表 交渉行動とボランティア参加回数

	お金の管理		時間の管理		対人的調和		スキルの獲得	
	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い
過去1年間のスポーツボランティア参加回数	2.01 (4.08)	3.12 (14.26)	1.32 (2.05)	3.89 (15.27)	2.45 (12.03)	2.76 (10.35)	1.10 (1.60)	3.50 (13.72)

()は標準偏差を示す

過去1年間のスポーツボランティア参加回数の平均は2.63回(標準偏差11.06)

交渉行動に含まれる4要因それぞれについて、中央値(お金の管理: 11.00; 時間の管理: 10.00; 対人的調和: 8.00; スキルの獲得: 9.00)を基準に高いグループと低いグループに分け、過去1年間のスポーツボランティア活動回数についてt検定で比較したところ、時間の管理($t(394) = 2.367, p < .05$)とスキルの獲得($t(394) = 2.742, p < .01$)について、グループ間で有意な差が見られた。

⑦ まとめ

- 性別による制約の違いは見られなかったが、年齢に関しては年齢の低いグループの方がボランティア参加を検討するにあたり制約を感じている。
- 日頃から時間の管理やスキルの獲得といった行動に取り組むことにより、実際のボランティア参加の回数にも影響が出る。

シニア層への積極的なアプローチ や 講習会の開催